

STaD×印旛地区郵便局

佐倉市で少年野球友遊ボール大会が行われました！

7月17日（日）、佐倉市立青菅小学校を会場に、令和4年度第14回佐倉市少年野球友遊ボール大会兼第5回佐倉市内郵便局長杯争奪大会の決勝戦が行われました。

友遊ボール大会は、少年野球の底辺拡大を図るため、小学生低学年を主体に保護者の参加を得て、少年野球の楽しさを体感するとともに親子の絆を育てて貰おうと、千葉県少年野球連盟が取り組んでいるもので、佐倉市では平成29年度から佐倉市少年野球連盟と佐倉市内郵便局長の共催により開催されています。

今大会には佐倉市内少年野球チーム28チーム、保護者の選手を含む約450名が参加。決勝戦ではトーナメントを勝ち抜いた佐倉フレンド・Aと王子台シーガルスが激突しました。

友遊ボールは安全なメガホンバットと柔らかいボールを使用し、1試合30分のタイムゲームで競います。野球と同様3アウトチェンジ制ですが、三振・四球・死球・盗塁がなく、打者はフェアゾーンに打つか、ファールフライを直接捕球されるまで打席に立ち続けることができます。投手は攻撃側の男性の保護者、捕手または1塁守を女性の保護者が担います。

【決勝戦の様子】



お母さんは打者としても活躍！



競技で使用される
メガホンバット



攻撃時に同チームの保護者が投手を務めることから、投げる際には「緊張しなくていいよ!」、「もっとベースに寄って!」、「いくよ、見せ場だよ!」など、打者に積極的に声をかけながらやさしく投げていました。また、女性の保護者は8番・9番と打席が定められていますが、皆さん思いきり打ちに行き、快音を響かせていました。

試合は佐倉フレンド・Aが2回までに6点を取る猛攻を見せ、王子台シーガルスは仲間からの大きな声援を受け何とか点を取りたいものの、相手側の堅い守りに阻まれ、結果7対1で佐倉フレンド・Aが勝利しました。

試合では、佐倉市内郵便局長らが終始熱い眼差しで選手一人ひとりの活躍を見つめ、個人賞を選考。閉会式では成績発表と表彰が行われ、佐倉江原郵便局の内藤好己局長が賞状とトロフィーなどを授与しました。また、主催者を代表し、佐倉市内郵便局長と佐倉市少年野球連盟からそれぞれ挨拶が行われました。内藤好己佐倉江原郵便局長は、白熱した試合が繰り広げられ、勝ったチーム、負けたチーム、色々な思いがあったと思いますが、その一つ一つがこれからの力になりますとメッセージを送りました。



仲間に声援を送る王子台シーガルス



個人賞を選考する佐倉市内郵便局長の皆さん



【閉会式】



優勝 佐倉フレンド・A



準優勝 王子台シーガルス



優勝チームの選手へのメダル授与

また、グラウンドに落ちているゴミをさりげなく拾う大リーグの大谷翔平選手を例にあげ、心遣いのできる選手になって欲しいと呼びかけました。続いて、齋藤真二佐倉市少年野球連盟会長は、大会でこれまで連覇したチームがないことを伝え、どのチームにも優勝するチャンスがあると選手たちを激励しました。

この日は、途中、雨で試合開始が遅れることもありましたが、皆、全力で臨み、思うようなプレーができず泣いてしまう子やエラーをしながらも気持ちを切り替えて守備につく保護者の姿などが見られ、子どもも大人も全力でプレーし、気持ちのいい汗を流していました。



佐倉江原郵便局 内藤好己局長



佐倉市少年野球連盟 齋藤真二会長



佐倉市内郵便局長の皆さん